

# 陽の里

発行 平成20年4月15日



社会福祉法人 新生会  
総合ケアセンター  
サンビレッジ

No.99

テーマ 新年度の展望



▲雲上の桜（池田町池田：毘沙門院）

伊藤誠敏（職員）撮影

## 新年度の展望

石原 美智子

理事長

「私達の使命」が刻まれた大きな石碑を左手に、右手には心和むせせらぎの音を聞きながらサンビレッジ新生苑へ足を運ぶと、すぐにアーチの下が今村勲記念館、通称バラ棟の玄関になっています。自動扉が開くと右手に初代理事長今村の小さな胸像と「決意」と書かれた文字盤が目にはいります。ここには、大學時代に先輩医師に聞かされた、富を独り占めにしないで社会に還元するようについて人生哲学が60歳になったときにありありと想い出され、実行に移すときが来たことの決意が記されています。

私達の生活支援という仕事は心身共に厳しさを求められます。その時救われることは、自分たちのやつていることが社会とどのように繋がっているかを認識すること、また、そのことを通して自分自身をより高めていくことが出来るることに気づくことではないでしょうか。

仕事の手順や知識はその人生觀の上に創り上げるもので、私達の日々の生活で何に価値を見いだすかを今年はみんなで話し合う時にしたいと思います。楽しく、豊かに手を携えて進んでいきましょう。



# サンビレッジ国際医療福祉専門学校

## ～現場での実践を通じた

### 人間力の向上～

サンビレッジ国際医療福祉専門学校長

村山 洋志



この春、サンビレッジ国際医療福祉専門学校の学校長を拝命いたしました。サンビレッジ新生苑のサービスの質とハートに感銘を受け、みんなと一緒に地域の方々、サービスを受ける高齢者の方々、そして、そのサービスの技術を体得し高齢の方々へ提供していく学生教育のために、微力ながらもお役に立てるように頑張つてしまりましたが、学校長として引き続

き同じ思いを持つてお役に立っていることに大きな喜びを感じているところです。

本校においては、専門学校として提供する専門的な知識のみならず、人間としての力（＝人間力）を育てることに力を注いできました。特に数年、NPO法人校舎のない学校が運営している「竹姿庵」（揖斐川町坂内にある茅葺一軒家）での取組が特徴的です。これまで便利な場所で便利な機器を携えて生きてきた若者が、携帯などを使えない不便な環境の中で、流しそうめんや川遊びなどの共同生活を送ることによって、これまでに経験したことがないような、仲間との連帯感、自分自身の責任感、他者への思いやりに目覚めていきます。まさに「何が変わる！」、「人間力が飛躍的に高まる！」のです。



本校の理念にもあるように、「他の人のいたみを自分のこととして感ずる感性と人が等しくいてゆくことの福祉觀」を基本として相手の気持ちに立てる思いやりのある人間になることが、医療福祉の現場で働くスタッフとして一番大切なことです。このような感性を持つためには、「竹姿庵」や、サンビレッジ新生苑のような現場での学びが重要となります。人間は、知識だけでは人間力を高めることはできません。現場で失敗し涙を流し、褒められて笑顔を取り戻し、友人・仲間と喧嘩しながら仕事を通じて仲直りし、このような現場での実践が、本当の意味での人間力を高めていくのです。

これからは少子高齢社会という時代の潮流の中で、物資面でも社会システム面でも大きくバランスを崩していきます。しかし、未来の社会を支えていくためには、今の若者が「目覚め」「自分自身を変え」自ら行動していくことが必要となります。本校の役割は、このような学生を育て果立たせることだと確信しております、地域のために高齢の方々のために社会のためにこの取組を心を込めて進めていきたいと思っています。



# これからの中高齢者介護を担う



## サンビレッジ新生苑

施設長 馬渕規嘉

今春で32年目を迎える「サンビレッジ新生苑」は、私と同じ年である。私と高齢者介護との出会いは祖父の在宅介護がきっかけとなつた。

認知症の祖父を在宅で介護する祖母、母。夜間バジャマ姿で外をウロウロするなど徐々に症状がみられ家族の介護負担も多く、家族崩壊の一歩手前であった。そんな家族の苦労を少しでも軽減したいと介護の扉を開いた。私の趣味は「旅」をすること、多くの人の出会いから人との関わりの楽しみを感じる。そこに私は原点があると感じている。自動車整備士の仕事から転職し、祖

父の家族介護からプロの介護職を目指し、「サンビレッジ国際医療福祉専門学校」へと進み、当苑へと入職した。現場での介護経験から、「高齢者の力」を見出し、それを活かした介護によりお年寄りの変化を感じることが介護の醍醐味と思う。誰もが等しく生きていける「ノーマライゼーション」を目指し「介護の専門性」を発揮できる職場をスタッフとともに作っていきたいと思う。また、地域の様々な資源を活用し施設としての役割を考え、これからの社会を支える仕組みを考え実践していく。きたい。

365日の営みを、その人らしく、その人の時間の流れの中で、自然に営まれるような自立支援を目指しています。

その実現に向け、六月より、これまで施設部門であった「ショートステイ」を在宅部門の「サービス」と一つの部門に統合し、「トータルサポートセンター」



英会話教室に一緒に集うデイ、ショート、ホーム入所の各利用の皆さん

# トータルサポートセンターの開設に向けて ～更なる「人」と「人」の繋がりを目指して～

## 地域部門チーフ 玉城栄之功

私達はこれまで、サンビレッジの中にある「まわりホール」「地域の公民館」としてご利用頂けたときに・いざというときに何るよう、「サンビレッジで暮す人」「サンビレッジに泊まりに来る人・通てくれる人」「そこに集うボランティアさん・スタッフ」を含めた、その場所で出会う人の繋がりを、大切にしてきました。

また、身体障害の有無や、認知症の有無に捉われてではなく、「人」としての個別性や、24時間

福祉（幸福）に関わる事業者として、そこに関わる全ての「人」

がそれぞれの立場で生活に「幸せ」が得られるよう、皆様と共に優しい地域社会の実現に向けて、これからも切磋琢磨していきたい

と思います。

365日の営みを、その人らしく、その人の時間の流れの中で、自然に営まれるような自立支援を目指しています。

指して

# トピックス

## 「花と風と太陽と」～ひまわりは春に咲く～



お菓子クラブ



木工クラブ



園芸クラブ



手芸クラブ

サンビレッジ新生苑の「ひまわりホール」に新しい花（ユニット活動）が咲き始めました。花の色や形が環境によって違うように、人の個性や得意なことも違うもの。今当苑では、利用者さん一人一人の「やりたい」という声を活かせるレクリエーションを進めています。

「お菓子を作って家族にプレゼントしたいな」「木工でみんなが使えるテーブルを作ろう」「植物の手入れなら任せてね」「趣味の手工芸品を売店で売ってみよう」「景色をみながら、のんびりしたい」等々。

はじめは小さなつぼみでした。でも利用者さんの「まずはやってみよう」という声や、それに対する職員やボランティア等の温かい風（援助）により、徐々にユニット活動が開花してきました。これからはそんな春の予感を、地域で共に暮らす皆さんにも感じて頂けたらと思っています。

しかし、どんなに高価なカメラでも、流れる風は写せません。どんなに最新のパソコンでも、花の香りは残せません。レクリエーションに興味を持たれた方は、太陽の村（サンビレッジ）にぜひお越し下さい！

ひまわりホールを更に明るくする、皆様の笑顔をお待ちしています。

## 田中真紀子氏講演会開催！

テーマ「語り合おう、介護と教育」

(仮題)



～サンビ特派員  
兼太郎かくよ～

## 中川さくら祭り開催！

～大垣より愛を込めて～



(前回 H15.1.26 来苑時の写真)

日 時 平成20年 5月31日(土)※

場 所 池田町中央公民館

日 程 13:30～ 講演会受付

14:00～ 講演会開始

15:00～ 田中氏との談話会

(ピーチクバーチク会)

\*政局の動向等により延期になる場合があります



4月5日、中川さくら祭りが盛大に行われました。この祭りは、地域の自治会参画の下、中川さくら祭り実行委員会が中心となり、今年で2回目の開催となりました。

### 祭りを盛り上げて下さったみなさん

北方町自治会・曾根町自治会・C & C・なでしこ・

HIGE ☆ BU・岐阜経済大学沖縄県人会

大垣女子短期大学・石原社中

梶井景子社中



通称「ムーブ愛」と呼んでいます

## 愛のともしび基金 補助事業完了のお知らせ

この度、財団法人愛のともしび基金から、平成19年度社会福祉法人等備品整備事業の補助金を受け、配食サービス用車輛を購入しました。

ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、財団法人愛のともしび基金をはじめ、ご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

# 軽度の人の訪問看護は、 介護保険の無駄使いか？

解説

最初は、Hさんの体調不良の相談にのることから始まり、受診を勧めることになった。抗うつ剤と安定剤が処方され、少しずつ外出できるようになりゲートボールへの参加もでき、友人と喫茶店にも出かけるようになった。しかし、体調も気分もよいと、定期的に受診をすることを忘れ、薬を飲むこともしなくなり、精神的に不安定になり「えらい、何とかして

## 秘蔵版

本編に、勝るとも劣らない貴重な事例の  
秘蔵版を紹介します。

Part 2 vol.7  
15th April 2008

# 尊厳を支えるケアを めざして

総合ケアセンター サンシャイン

中央法規

50 のショット



推奨します 厚生労働省社会・医療局長 中村秀一  
進化するケア本書はおもに中高年の看護者介護の  
トータルプランナーの30年の実践の成果を示している。  
「尊厳を支えるケア」を目指す同志、読むべし。

中央法規

定価 本体2,000円(税別)

事例

妻を亡くしてから気力をなくしたHさん、大好きなゲートボールへも行かず、毎日家に閒じこもるようになった。外に出でることが億劫になり、不眠にも悩まされていた。このままだと認知症が進んで、在宅での生活が困難な状態になるのではと考えたケアマネジャーは、ヘルパーやディサービスの導入を考えた。しかし、要支援のHさんは、まだ自分には必要ないと受け入れる様子はなかった。しかし、妻の訪問看護師を頼っていたHさんは、訪問看護だけは受け入れることができた。こうして医療依存度の高い利用者への訪問が多くなった訪問看護師の、要支援のHさんへの訪問が始まった。

くれ、看護師さんの顔を見れば楽になる」と電話が入るといつた員台であった。

そこで週1回、短時間、定期的に訪問に入ることになった。

主に服薬管理・受診の手配である。調子がよくなると処方された薬を断つてしまつてしまつともあるため、調剤薬局の薬剤師と連絡を取り、薬を預かってもらつなどの手配を行つた。

こうした関わりをもつことで、訪問看護への信頼は大きくなり、次第に進んでいく認知症の症状に、ホームヘルパーの導入や、ティサービスの利用を進めることへもつながつた。現在も要介護1と認知症の進行はあるものの、電動力車に乗り、ゲートボールに出かけたり、友人と喫茶店に出かけたりと、悠々自適の一人暮らし生活が継続されている。

訪問看護など、床ずれがひどい重度の在宅高齢者といったイメージがあり、ケアマネジャーが軽度の利用者への訪問看護を導入したいと、主治医を訪ねると「こんな軽度の人には訪問看護は必要ない」と言われる医師もまだまだ多くいる。

しかし、軽度で医療的管理が必要な高齢者に訪問看護が入り、服薬管理、身体的異常の早期発見を行い早めに対応するなど、重度化を防ぐことができると思える。また、介護保険が導入され5年が過ぎ、福祉サービスの理解や利用も多くなつてしまつてゐるが、まだまだ福祉サービスの導入に理解がなく、利用を拒否された結果、重度になるといったケースもある。しかし訪問看護は「病気だから来てもいいからね」という医療サービスのイメージがあり、最初の導入時の受け入れがよい。

健康で元気な老後を迎えるには、利用者にとっても、家族にとっても、またサービスを提供する事業所にとっても素晴らしいことといえる。

介護予防が重要視される中、訪問看護師の軽度利用者への訪問は決して介護保険の無駄遣いではない。

## Point

### 重度にならなければならぬためのサービス

### （「尊厳」を守るサービス）